

令和8年度

**教育委員会の事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価に関する報告書【概要版】**

（令和7年度対象）

令和8年9月

香川県教育委員会

目 次

I	目的と制度の概要	1
II	点検・評価の方法	
III	点検・評価の結果	3
1	学力の育成	4
2	心の育成	8
3	体の育成	12
4	郷土を愛し、郷土を支える人材の育成	14
5	安全・安心で、魅力あふれる学校づくり	17
6	家庭や地域での学びの環境づくり	21
7	スポーツの振興	23
8	文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用	25
IV	「香川県教育基本計画」及び「『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げている数値目標に対する現状と評価	26
V	報告書の公表	27

(参考) 令和 7 年度に策定した計画 (プラン)

I 目的と制度の概要

効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、毎年、その権限に属する「事務の管理及び執行の状況」について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表する。

II 点検・評価の方法

- 1 令和 7 年度における教育委員会の権限に属する「事務の管理及び執行の状況」について、「香川県教育基本計画」及び「『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画」で掲げる数値目標の進捗状況を踏まえて、主な取組みの実施状況及び成果を記載することにより、点検・評価を実施した。

「香川県教育基本計画」について

本県教育の進むべき方向とめざすべき目標、そして、それらを実現するための総合的な教育施策を明らかにした本県における教育振興のための施策に関する基本的な計画で、計画期間は令和3年度から令和8年度の6年間。なお、この計画は「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」の教育・スポーツに関する分野別計画である。

「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり～自立・協働・創造を支える香川の教育～」を基本理念に掲げ、これを実現するため、次の7つの重点項目を定め、教育施策を推進する。

〔重点項目〕

1. 学力の育成
2. 心の育成
3. 体の育成
4. 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成
5. 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり
6. 家庭や地域での学びの環境づくり
7. スポーツの振興

「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」について

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は令和3年度から令和8年度の6年間。「人生100年時代のフロンティア県」の実現を基本目標に掲げ、安全・安心で住みたくなる香川をつくる「県民100万人計画」、活力に満ち挑戦できる香川をつくる「デジタル田園都市100計画」、多くの人が行き交い訪れたくなる香川「にぎわい100計画」の3つの基本方針のもと、みんなで子育て・挑戦できる・訪れたくなる香川をめざしている。

2 点検・評価を行うに当たっては、令和8年7月15日、29日、30日に地域教育行政懇談会を開催し、本県の教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図った。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

数値目標に対する評価について

「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げる施策ごとの数値目標の行政評価と同様の手法により数値目標に対する評価を行っている。

（例：令和7年度実績値（5/6年間））

- A：達成率が83%以上（概ね順調に推移した。）
- B：達成率が42%以上83%未満（順調ではないが一定程度進展した。）
- C：達成率が0%超42%未満（順調ではないが少しは進展した。）
- D：達成率が0%以下（進展していない。）
- ：統計の調査年等の関係で評価ができないもの。

Ⅲ 点検・評価の結果

施策体系

本県教育の基本理念「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり
～自立・協働・創造を支える香川の教育～」を実現するため、各重点項目の基本的方向を踏まえ、計画的・総合的かつ積極的に取組みを展開する。

重点項目	基本的方向	取組みの内容
1 学力の育成	①確かな学力の育成と 個に応じた教育の推進	1 確かな学力の育成 2 読解力の育成 3 ICTを活用した教育の推進 4 小・中・高等学校を通じた外国語教育の推進 5 幼児期の教育の推進 6 特別支援教育の推進 7 校種間連携の推進
2 心の育成	①豊かな心、多様性を 尊重する心の育成	1 道徳教育の充実 2 自己肯定感・自己有用感の育成 3 豊かな感性や情操の育成 4 人権・同和教育の推進
	②共感的理解に基づく 生徒指導の充実	1 いじめや暴力の未然防止 2 不登校児童生徒への支援 3 インターネットの適正利用と ネット・ゲーム依存予防対策の推進
3 体の育成	①未来を支える健やかな 体づくりの推進	1 体力づくりの推進 2 健康教育の推進 3 食育の推進
4 郷土を愛し、 郷土を支える 人材の育成	①郷土を支える 教育の推進	1 郷土に誇りを持つ教育の推進 2 社会に参画する力の育成 3 キャリア教育の推進
	②地域を担う グローバル人材の育成	1 グローバル人材の育成 2 課題解決能力の育成
5 安全・安心で、 魅力あふれる 学校づくり	①安全で安心できる 学校づくり	1 学校の安全・安心の強化 2 学校施設等の整備、充実 3 学びのセーフティネットの構築
	②教職員の 資質・能力の向上	1 優れた教職員の確保と資質・能力の向上 2 学校における働き方改革の推進
	③信頼され魅力ある 学校づくり	1 地域と協働する学校づくりの推進 2 学校の特色化・魅力化の推進
6 家庭や地域での 学びの環境づくり	①家庭・地域の 教育力の向上	1 家庭の教育力の向上 2 地域の教育力の向上
	②いつでも学べる 環境づくり	1 子どもが読書に親しめる環境づくり 2 生涯学べる環境づくり
7 スポーツの振興	①多様な スポーツ環境づくり	1 生涯にわたりスポーツに親しむことが できる環境づくり
	②スポーツ競技力の向上	1 トップアスリートをめざし、競技力を 高めることができる環境づくり

『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げる施策

8 文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用（施策 80 文化芸術による地域づくり）

重点項目 1 学力の育成

基本的方向① 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

1 確かな学力の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版4～6頁

児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実

- ・ 小学校において3～4教科、高学年は週8時間程度、中学年は週4時間程度、専科担当教員による専門的な指導を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
1	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 73.1 中学校2年生 59.5	小学校5年生 66.9 中学校2年生 52.6	D	小学生 77 中学生 65
2	全国学力・学習状況調査における正答率40%未満の児童生徒の割合の全国平均との差	pt	小学校6年生 -1.8 中学校3年生 0.0 (R元年度)	小学校6年生 -0.7 中学校3年生 0.9	D	小学生 -2.4 中学生 -0.6

評価・課題

- 令和3年度より、「小・中学校における35人学級の実施」、「小学校高学年における教科担任制の拡充」を2つの柱とする新しい指導体制で取り組んでおり、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実や子ども同士の話し合いの活性化に一定の効果が見られる。

今後の展開

- 「香川型指導体制」の成果や課題等を検証し、子ども一人ひとりの成長やつまずきを理解し、個々の興味・関心に応じたきめ細かな指導・支援や、子ども同士の話し合いの活性化などに一層取り組むために、小・中学校全学年での35人学級の実施の継続や小学校における中学年への教科担任制の拡充をさらに図っていく。また、令和9年度以降の小・中学校における新しい指導体制の在り方について、委員会を設置し検討していく。

2 読解力の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版7～8頁

学校における読書活動の推進

- ・ 研究指定校による読書活動の推進に関する実践研究の実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
3	「読書は好きですか」との質問に、「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 79.7 中学校2年生 74.0	小学校5年生 70.4 中学校2年生 60.0	D	小学校5年生 82 中学校2年生 75

評価・課題

- 活字離れが危惧される中、読書習慣が身に付くような読書活動の工夫、改善を図る必要がある。
- 県立高校では、一斉読書活動の推進や研究指定校の実践研究など、読書活動の普及に努めた結果、「一斉の読書活動を週一回以上又は特定の時期などに実施している学校」は22校(75.9%)で、このうち、「毎日実施している学校」は12校(41.4%)であり、学校における読書活動が定着してきている。

今後の展開

- 学力調査の結果をもとに、課題となった読解力や表現力について、検証改善サイクルを用いて向上を図るとともに、各教科での学校図書館等の活用を進めていく。

3 ICTを活用した教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 9～10 頁

情報活用能力の育成

- ・ 教員がICTを有効活用して指導する能力を向上させるため、各キャリアステージにおける経年研修と希望参加の専門研修において研修を実施
- ・ 香川県学校教育情報化推進計画に基づいたICT活用の効果的な実践に向け、市町等と連携した実証研究と、その成果の普及等を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
4	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	%	小学校 68.8 中学校 59.2 高校 85.4 特別支援学校 70.5 (R元年度)	小学校 80.8 中学校 66.5 高校 82.9 特別支援学校 76.5 (R6年度)	D	小学校 100 中学校 100 高校 100 特別支援学校 100

評価・課題

- ICT活用教育のさらなる推進のためには、学校におけるICTの日常的な活用が不可欠であり、教員のICT活用指導力の向上と、学校ICT環境の継続的な整備が必要である。

今後の展開

- 公立学校の児童生徒及び教職員が、授業や校務等で活用する県下統一のクラウドサービスを順次導入し、教育の質の向上を図る。
- 指導主事等を派遣した校内研修の支援や、情報教育に関する研修内容の更新を通して、教員のICT活用指導力の向上を図る。

4 小・中・高等学校を通した外国語教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 11～12 頁

コミュニケーション能力を育成する英語教育の推進

- ・ 令和7年度から、「外国語教育推進モデル校」において、海外の同年代の子どもたちとのオンライン英会話の機会を設定し、その成果・課題を「香川の教育づくり発表会」で共有

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
5	「英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」との質問に「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	%	中学校 75.8 (R元年度)	中学校 79.6	B	中学校 82

評価・課題

- 小・中学校の連携において、取組み・実践の情報交換にとどまらず、研究協議をしたり、互いの学校で授業を行うなどの交流を推進する必要がある。

今後の展開

- 「外国語教育推進モデル校」において、海外の同年代の子どもたちとのオンライン英会話の機会を設定するとともに、AIを活用した英語による発信力の強化に取り組むことで、英語学習への意欲と英語による発信力の向上を目指す。また、研修等を通じて、そのノウハウの横展開を図る。

5 幼児期の教育の推進

令和7年度の主な取り組み・実績

詳細は全体版 13～14 頁

教員研修の充実

- ・ 幼児期の教育に関する内容、幼稚園等の運営・管理、保育技術等に関する研究を深め、幼児期の教育の振興・充実を図るため、幼児教育香川県研究協議会（実践発表・協議、県からの提案、講演等）を実施
- ・ 令和5年度から義務教育課内に設置した「かがわ幼児教育支援センター」を拠点とし、就学前教育施設に対する職員研修を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
6	幼小の円滑な接続に向け、接続期のカリキュラムを検討する研修会に参加した幼稚園の割合	%	20.5	93.7	A	80

評価・課題

- 子ども・子育て支援新制度に基づき、幼稚園・保育所・認定こども園が連携を図りながら、ともに乳幼児期の教育の質の向上を図っていく体制を構築していく必要がある。

今後の展開

- 令和7年3月に作成した幼保小の架け橋プログラムに関するリーフレットを各種研修会で活用し、「架け橋期」の教育の充実を図る。

6 特別支援教育の推進

令和7年度の主な取り組み・実績

詳細は全体版 15～17 頁

切れ目ない支援体制の充実

- ・ 令和8年3月に、小・中学校長及び高等学校長に対し、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒等について、個別的教育支援計画等の作成・活用を進めるよう、「個別的教育支援計画の参考様式」及び「個別的教育支援計画の作成・活用スケジュール（例）」を送付

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
7	通常の学級に在籍する、障害のある児童生徒などのうち、特別な支援を必要とする児童生徒※の中で、「個別の指導計画」が作成されている割合 ※通級による指導対象者を除く	%	小学校 37.3 中学校 11.0	小学校 50.4 中学校 16.5	C	小学校 60 中学校 50

評価・課題

- 小・中学校では、特別支援教育を受ける児童生徒が急増しており、専門的教育機関として特別支援学校による支援を強化する必要がある。

今後の展開

- 特別支援学校を取り巻く課題やこれまで取り組んできた教育実践の成果等を踏まえ、「今後の県立特別支援学校の在り方検討委員会」を設置し、特別支援学校の今後の方向性や具体的な方策、整備すべき施設などについて検討を行う。

7 校種間連携の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 18～19 頁

幼児期の教育と小学校との連携の推進

- ・ 幼児期から児童期への長期的な視点で子どもの発達を捉え、それぞれの時期に応じた教育内容や指導方法の在り方を研究するために、小学校教員を対象とした幼稚園等における幼児教育長期研修を実施（さぬき市）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
8	異校種の児童生徒を対象とした交流事業を行っている県立高校の割合	%	24.1	58.6	A	60

評価・課題

- 県主催の研修会における、架け橋期に関する啓発により、市町主催の研修会の中でも、幼小連携・接続をテーマとして研修を行い、取組みを進めている市町が増加している。

今後の展開

- 義務教育課内に設置している「かがわ幼児教育支援センター」において、幼・こ・保における充実した教育・保育活動を推進。

1 道徳教育の充実

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 20～21 頁

家庭や地域と連携した道徳教育の推進

- ・ 「生」や「死」に直面する仕事に就いている助産師、救急救命士等を「いのちのせんせい」として小・中学校に派遣し、実体験を通じて生きるものの意味や命の大切さなどを伝える出前授業を開催（175校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
9	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 77.2 中学校2年生 76.1	小学校5年生 76.6 中学校2年生 75.3	D	現状を上回る水準

評価・課題

- 学校行事の見直しなどが進む中、友達との交流場面において、言葉を補いながら丁寧に意思疎通を試みていこうとする、児童生徒のコミュニケーションに対するモチベーションをいかに高めていくかが課題である。

今後の展開

- 「いのちのせんせい」は、生命尊重の意識を育てるうえで効果的な事業であり、より子どもたちの心に響く道徳の授業の実践のために、事前の打ち合わせを一層密にするよう、実施校へ働きかける。
- 「人の気持ちが分かりたい」という意識や規範意識を醸成するために、「13歳の自律教室」について内容の充実を図るとともに、集団の中で個を育てる学校において、さまざまな他者との関わりが児童生徒自身の主体的な思いから生まれるよう、学校の枠を越えた児童生徒による自発的・自治的な交流活動を促す「いじめゼロ子どもサミット」等の活動を積極的に支援する。

2 自己肯定感・自己有用感の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 22～23 頁

家庭や関係機関との連携

- ・ 学級や学年等の枠を越えた児童生徒の自発的・自治的な交流活動により、自己の個性の発見とよさや可能性の伸長を図るとともに、社会的資質・能力の発達を支えるための調査研究と成果普及を総合的に行う「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業」を実施（小学校2校、中学校2校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
10	「自分には、よいところがあると思いますか。」との質問に、「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 71.2 中学校2年生 66.4	小学校5年生 72.7 中学校2年生 73.9	A	小学校5年生 72 中学校2年生 67

評価・課題

- 自分には、よいところがあると肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度と比べ、小学校で1.9pt、中学校では1.8pt向上しており、いずれも令和8年度目標を上回る水準となっている。

今後の展開

- 「いじめゼロ子どもサミット」や各学校における学校行事等を通じて、児童会や生徒会を中心に児童生徒が主体となる自主的な活動を充実させ、さまざまな活動の中で成功体験を増やしていく。

3 豊かな感性や情操の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 24～26 頁

学校や地域における文化芸術活動の充実

- ・ 「香川県小・中学校総合文化祭」の開催を支援
- ・ 「第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭 2025）」を、県内の高校生からなる生徒実行委員が中心となり開催

学校における読書活動の推進

- ・ 読書の楽しさに出会う機会を創出できるよう、「香川の子どもたちに贈る 100 冊」を活用

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
11	「本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」との質問に、月に1～3回以上と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 71.9 中学校2年生 33.1	小学校5年生 63.2 中学校2年生 27.6	D	小学校5年生 76 中学校2年生 38

評価・課題

- 「第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭 2025）」の開催及び「香川県小・中学校総合文化祭」の開催支援により、文化芸術活動に取り組む児童生徒に対して成果発表の機会を提供するとともに、高校生を対象とした研修会の開催を通して文化芸術活動の活性化を図ることができた。
- 小・中学校では、全校生で一斉読書活動に取り組んだり、図書の読み聞かせや推薦図書コーナーを設置したりするなど、読書推進活動への取組みが見られるものの、ICT機器の活用などの影響により、読書離れの状況が続いており、月に1～3回以上学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行くと回答した中学生の割合は減少し続けている。

今後の展開

- 「第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭 2025）」の開催で得たものを次世代に継承させるとともに、子どもたちが豊かな感性や、生涯にわたって文化芸術に親しむ心を育むため、引き続き、文化芸術に接する機会や専門的な指導を受ける機会、発表の場の充実などを図っていく。
- 豊かな感受性や表現力、創造性を育むために、各学校段階において、読書活動の充実を図ることが必要であり、読書への関心・意欲を高めるためには、学校図書館の計画的な活用、一斉読書などに地道に取り組む。

4 人権・同和教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 27～28 頁

人権や多様性を尊重する意欲や態度の育成

- ・ 県内教職員に、自分のペースで受講できるオンデマンドの動画研修の機会を提供し、教職員の人権に関する理解や認識を深め、指導力の向上を図るための人権・同和教育教職員指導力向上研修を実施（8月～1月）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
12	人権・同和教育教職員ハンドブックを活用して校内研修を行った学校の割合	%	50.8	100	A	100

評価・課題

- 内容を大きく見直し令和3年度に全教職員に配付した人権・同和教育教職員ハンドブックを教職員研修において活用した学校の割合が全校種で100%となった。

今後の展開

- 教職員に対する人権・同和教育の指導について、参加体験型学習や授業づくりの実践など指導スキルを向上させる研修の充実を図る。

1 いじめや暴力の未然防止

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 29～32 頁

人間関係づくり、自己指導能力の育成

- ・ いじめをなくす機運を高めるために、各学校の児童会・生徒会が中心となつて行う「いじめゼロ強調月間」（11月）の支援や、児童生徒の自発的・自治的活動によりいじめ撲滅に向けた機運を醸成する「いじめゼロ子どもサミット2025」（8月）を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7年度 実績	評価	R8年度 目標
13	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 86.9 中学校2年生 82.5	小学校5年生 81.7 中学校2年生 75.4	D	現状を上回る水準

評価・課題

- 直近の調査結果である令和6年度の暴力行為の状況については、1,000人当たりの発生件数は8.8件だった。いじめの状況については、1,000人当たりのいじめ認知件数は52.6件で、全国平均61.3件を下回っており、さまざまな取組みの成果によりいじめを抑止できていると捉えることができる一方、軽微なものも含めていじめを見逃すことがないよう、さらに認知の感度も高めていく必要がある。

今後の展開

- いじめの問題への対応として、導入の効果がみられるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどチーム学校の専門スタッフの一層の活用を図り、学校の教育相談体制を充実させる。また、いじめを生み出さないよう、「絆づくり」、「居場所づくり」を重視し、魅力ある学校づくりを推進するとともに、「香川県いじめ問題対策連絡協議会」での協議を通して、学校と家庭や児童相談所等との連携強化を図るなど、より一層の改善に向けた取組みを推進する。

2 不登校児童生徒への支援

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 33～35 頁

不登校、高校中退対策の充実

- ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、チーム学校の専門スタッフ等のアセスメントを踏まえ、不登校の要因や背景の把握に努め、児童生徒との信頼関係を築けるよう、研修等を実施（2回）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7年度 実績	評価	R8年度 目標
14	「学校に行くのは楽しいと思う。」「に「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校5年生 80.3 中学校2年生 76.5	小学校5年生 79.4 中学校2年生 78.6	D	小学校5年生 83.0 中学校2年生 82.3

評価・課題

- 欠席期間別にみると、年間50日未満が増加し3割を占める一方で、年間出席日数が10日以下の児童生徒も増加し1割を占めている。
- 早期支援や学校での居場所づくりが必要な児童生徒が多い一方で、長期化への対応や関係機関と連携した社会的自立の促しが必要な児童生徒も増えている状況であり、実態把握に基づいた、個々の状況に応じた支援を進めていく必要がある。

今後の展開

- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどチーム学校の専門家の一層の活用を図り、学校の教育相談体制を充実するとともに、校内サポートルーム研究指定校において、不登校傾向の児童生徒への効果的な支援を研究していく。また、「香川県不登校児童生徒支援協議会」での協議を通して、学校と家庭や児童相談所等との連携強化を図るなど、より一層の改善に向けて取組みを強化する。

3 インターネットの適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 36～37 頁

ネット・ゲーム依存予防対策の推進

- ・ ネット・ゲーム依存について自分のこととして児童生徒に考えさせるとともに、家庭でのルールづくりを推進するため、保護者への啓発を目的とした「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」を配付

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
15	「携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか」との質問に、「守っている」または「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 72.5 中学校 2 年生 60.6	小学校 5 年生 66.3 中学校 2 年生 59.8	D	小学校 5 年生 75 中学校 2 年生 66

評価・課題

- 「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」を活用し、家庭でのスマートフォン利用について話し合う機会につなげた。
- 小学生とその保護者を対象としたワークショップでは、フィルタリングについての説明や個別相談を行い、スマートフォン等との付き合い方について親子で考える機会を提供した。スマートフォン等の利用開始が低年齢化していることから、今後も小学生とその保護者への啓発に力を入れていく必要がある。

今後の展開

- 児童生徒が自らスマートフォン等の使用時間等を振り返り、ルールづくりについて家族と話し合えるようにするため、ネット・ゲーム依存予防対策のための学習シートの作成及び小・中学校、高校等への配付を継続して行っていく。各学校においては、学習シートを夏休み前のホームルームや保護者懇談会等で児童生徒や保護者に配付し、説明するとともに、夏休み後の振り返りに活用する。

1 体力づくりの推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 38～39 頁

体力づくり活動の推進

- 「運動の日常化・生活化」を図るため、各学校が、体力・運動能力調査の結果を踏まえた体力向上にかかる計画（体力向上プラン）を作成するとともに、市町において各学校の取組みを把握し、市内の関係団体等との連携を通して、体力向上につながる取組みを推進

運動部活動の充実

- 「香川県部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を策定し、各市町における中学校部活動の段階的な地域展開の推進を図った。

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
16	全国体力・運動能力調査の体力合計得点の全国順位の平均	位	27 (R元年度)	34	D	20 以内

評価・課題

- 本県の小学校男子の「体力合計点」は、調査開始以降、最も低かった令和4年度の調査と比較すると回復基調であるが、小学校女子・中学校男子は横ばい傾向である。中学校女子については、調査開始以降、最も低い数値となっている。

今後の展開

- 「あそびんピック in Kagawa」や「Kagawa2026 体力番付」を中心に、小学校段階からの「運動の日常化」に向けた取組みを推進することで、体力向上をめざす。
- 部活動改革の推進に向け、「香川県中学校部活動地域展開推進協議会」において、地域展開の在り方について検討を進めるとともに、引き続き、国の委託を受け、部活動の地域展開に係る実証事業を実施し、成果・課題等について推進協議会等で検討し、地域展開を進める際の参考となるよう県全体で発信していく。

2 健康教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 40～41 頁

健康課題に対応した教育の推進

- 各学校の肥満傾向出現率等の調査結果から、依然として肥満傾向の出現率が全国平均を上回っている等の情報を提供し、各学校での取組みを支援

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7年度実績	評価	R8年度目標
17	肥満傾向児童生徒の出現率の平均 (各学校の出現率 5 年間平均)	%	小学校 7.76 中学校 9.27 高校 10.11 (H28～R2 年度の平均)	小学校 9.47 中学校 10.95 高校 10.46 (R3～R7 年度の平均)	D	現状からの減少

評価・課題

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、生活習慣の乱れ等が原因となって体力の低下傾向が見られる。また、心の健康問題、アレルギー疾患、感染症、性に関する問題などの多様化する現代的健康課題に対応するため、保健主事がリーダーシップを発揮するとともに、養護教諭の専門性を生かし、学校教育全体を通して、健康教育を推進していく必要がある。

今後の展開

- 児童生徒の血液検査や生活習慣調べ等の結果に基づき、担任や養護教諭、栄養教諭、学校医等が連携し、児童生徒の発達段階に応じた健康相談や保健指導の充実を図るとともに、幼児期からの栄養、健康に関する取組みや、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力の向上を図る取組みを推進する。

3 食育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 42～43 頁

個別の相談指導の推進

- ・ 食に関する健康課題を有する児童生徒に対して、教職員が共通理解を図り、学校内外で連携して個別的な相談指導を行うことができるよう、体制整備を支援

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
18	栄養教諭・学校栄養職員による教科等における食に関する指導を行っている割合	%	小学校 96.0 中学校 79.1	小学校 94.7 中学校 87.3	D	小学校 100 中学校 100

評価・課題

- 食物アレルギー事故の事例をもとに注意喚起を行うとともに、事故防止の対策について研修を行った。今後も給食の安全・安心に向けて、食中毒防止や事故発生時の対応について市町教育委員会等に注意喚起を行っていく必要がある。

今後の展開

- 食育指導については、各学校において、学校規模や地域等の実情に応じた取組みを進めるとともに、その取組事例を全体に共有していくことで、組織的な食育指導を推進する。また、ICTを活用した効果的な食育の取組事例についても収集し、共有していく。

1 郷土に誇りを持つ教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 44～45 頁

県立文化施設などを活用したふるさと学習の推進

- ・ 埋蔵文化財センターの施設見学やワークショップ、仕事体験で訪れた児童生徒に対して、讃岐国府跡を中心とした地域の歴史の学習や、「土器づくり」などの昔の人々の暮らしを体験することで、郷土の歴史・文化への興味・関心を高める機会を提供

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
19	「今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。」との質問に、「ある」または「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 66.4 中学校 2 年生 44.3	小学校 5 年生 68.7 中学校 2 年生 42.2	C	小学校 5 年生 68.7 中学校 2 年生 53.2

評価・課題

- 埋蔵文化財センターの施設見学やワークショップの参加者からは、「地域の歴史を身近に感じた」や「古代体験メニューを増やして欲しい」との感想が寄せられるなど、郷土の歴史・文化への強い関心やニーズを感じることができた。

今後の展開

- 埋蔵文化財センターにおいては、郷土の歴史を学び、郷土の大切さを知ることのできる場として、より多くの児童生徒に活用してもらえるように、古代体験メニューの充実や教育機関や地域の諸団体と連携した積極的な情報発信に努めていく。

2 社会に参画する力の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 46～47 頁

主権者教育の充実

- ・ 現実社会の課題を見だし、協働しながら追究し解決する力を育成するため、高校の総合的な探究の時間において、行政機関や大学、企業、地域住民などと連携し、地域課題を題材とした課題解決学習を充実

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
20	外部の関係機関から講師を招聘して主権者教育や消費者教育、金融教育等の取組みを行っている県立高校の割合	%	62.1	79.3	B	100

評価・課題

- 主権者教育については、現実社会の課題を見だし、協働しながら追究し解決する力やよりよい社会の形成に主体的に参画する意欲や態度を育成できるよう、社会科や公民科だけでなく、総合的な探究の時間や特別活動など、学校の教育活動全体の中で、関係機関や地域との連携を推進したりすることにより、一層具体的かつ実践的な学習活動の充実を図る必要がある。

今後の展開

- 選挙管理委員会や行政機関、大学等の関係機関や地域との連携・協働を一層推進し、出前授業の機会を増やすとともに、課題解決学習にフィールドワークを取り入れたり、成果を学校内外に向けて発表したり、政策提言につなげたりするなど、各学校の実態や特色に応じた効果的な主権者教育の取り組みや指導方法の改善・充実に努める。

3 キャリア教育の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 48～49 頁

キャリア教育の充実

- ・ キャリア教育の充実に向けた教員研修を実施
- ・ キャリア教育充実事業として、企業経営者や伝統工芸士、弁護士などのプロ講師を県立高校に派遣し、講義や技術指導を実施（講師 108 人、派遣 25 校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
21	「総合的な探究の時間」や「課題研究」の授業などで、地元の自治体や大学、企業等と連携した取組みを行っている県立高校の割合	%	79.3	100	A	100

評価・課題

- 地元経済団体の協力のもと、出前授業やインタビューシップなどに取組むことにより人材育成やキャリア教育を充実させている。
- 地域の企業と連携して、新製品の開発や販売を行うことで、郷土の産業や技術を学び、郷土をより良くしていこうとする態度を育成している。

今後の展開

- これまで、勤労観・職業観の育成に焦点が絞られていたが、社会的・職業的自立のために必要な能力の育成を充実させていく。
- 郷土をより良くしていこうとする態度を引き続き育成するため、学校と地域企業との取組み内容や成果を共有し、情報発信することで、その普及を図る。

1 グローバル人材の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 50～51 頁

国際理解教育の推進

- ・ 高校生にグローバル課題に主体的に取り組み持続可能な社会の実現を目指そうとする姿勢を養う「グローバルシンポジウム」の実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
22	生徒が英語を用いた言語活動を、授業の半分以上において行っている公立高校の教員の割合	%	69.3 (R元年度)	—	—	80

評価・課題

- 民間の英語資格・検定試験の結果分析をすすめ、4技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）の定着を図るとともに、教員の指導や評価の改善により一層生かしていく必要がある。

今後の展開

- 高校においては、教育課程運営改善研究会で各学校において実践した英語による言語活動等についてグループ協議をし、他校の好事例を参考にして、自校での実践につなげる。また、学校訪問での教科会で、英語による言語活動について指導助言をすることを通じて、生徒の英語による言語活動を推進していく。

2 課題解決能力の育成

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 52 頁

課題解決型学習の推進

- ・ 高校生や参観する教員が新たな価値の創造力を育成するプログラムを体験することでイノベーション教育の裾野を広げる「かがわイノベーションプログラム」を実施
- ・ 地域課題を題材とした課題解決学習の在り方についての情報交換及び研究

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
23	課題解決型学習の推進に向けての校内研修を実施している県立高校の割合	%	34.5	55.2	C	100

評価・課題

- 関係校と連携して実施した研究成果を踏まえ、作成した課題解決能力の育成の在り方に関する手引書を用いて、課題解決能力の育成の在り方について具体的な理解を深めた。

今後の展開

- 課題解決能力の育成の在り方について、校内研修の充実を図るための助言を行う。また、実践事例を蓄積し、探究発表会等の機会を通じて全県的な普及を図る。

1 学校の安全・安心の強化

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 53～54 頁

交通安全教育の充実

- ・ 学校における効果的な交通安全教室の実施等、交通安全教育の充実を図るため、交通安全担当者を対象に、警察署や大学教授による講義等を行うオンデマンドによる講習会を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
24	学校安全に関する外部の専門家や学校教育の専門家との連携を図るなど、学校安全計画や避難訓練等を外部有識者がチェック・助言する体制が整備されている学校の割合	%	41.6 (H30 年度)	78.5	A	78

評価・課題

- 各学校の交通安全教育の実践等により、県内の小・中・高校生の交通事故の件数は減少傾向であり、令和7年度の小・中・高校生の交通事故件数は令和6年度より減少した。しかしながら、児童生徒等が犠牲になる重大事故が発生するなど、各学校における交通安全教育の一層の充実が求められる。

今後の展開

- 県内の小・中・高校生の交通事故の件数は減少傾向にあるものの、中・高校生の自転車による事故の割合は依然として高く、自転車乗用中の交通ルールやヘルメットの着用、マナーの遵守に向けた交通安全教育や安全指導が不可欠となっていることから、自己の安全管理とともに他の人々や社会の安全に貢献できる社会人となるよう、警察等と連携した交通安全教育を実施するとともに、交通安全担当者に対して情報提供や交通安全教育の在り方などの指導を充実していく。

2 学校施設等の整備、充実

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 55～56 頁

県立高校の施設、設備の整備

- ・ トイレの洋式化を実施（津田高校など 16 校）

東讃地域の統合高校整備の推進

- ・ 建築工事に向けて、埋蔵文化財の発掘調査（R6.11～）を継続して進めるとともに、造成工事（R7.5～）や建築実施設計（R7.8～）などに着手した。

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
25	県立学校におけるトイレの洋式化の割合	%	県立中学・高校 60.6 特別支援学校 81.4	県立中学・高校 67.8 特別支援学校 87.2	B	県立中学・高校 68 特別支援学校 90

評価・課題

- 県立学校においては、トイレの洋式化や老朽化した校舎等の改築・改修等を計画的に進めていく必要がある。
- 東讃地域統合高校の整備に関して、開校予定の令和12年4月に向けて、施設整備や教育内容等について、引き続き、準備を進めていく必要がある。

今後の展開

- 香川県立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設設備の改修を行う。
- 東讃地域統合高校の施設整備については、造成工事や埋蔵文化財調査、建築実施設計を継続して進めるなど、建設工事に向けた準備を進めていく。

3 学びのセーフティネットの構築

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 57～58 頁

幼児、児童、生徒の就学支援の充実

- ・ 特別支援学校に就学する幼児、児童、生徒の保護者等の学用品、給食費、修学旅行などの経済的負担を軽減するため、家庭の負担能力に応じて特別支援教育就学奨励費を支給

修学支援の充実

- ・ 高校生に対し、授業料に充てるための高等学校等就学支援金及び高校生臨時支援金を支給

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
26	経済的な理由で修学が困難な生徒等に対する奨学金の貸与	%	—	—	—	着実な実施

評価・課題

- 経済的な理由により修学することが困難な生徒等に対し、奨学金の貸付を行うことにより、有為な人材の育成が図られている。
- 高校生に対し、高等学校等就学支援金及び高校生臨時支援金を支給することにより、教育費負担の軽減が図られている。

今後の展開

- 引き続き、特別支援教育就学奨励費の支給により、特別支援学校へ就学する障害のある幼児、児童、生徒の保護者等の負担軽減を図る。
- 経済的な理由で修学が困難な生徒等に対して、奨学金を貸与し、優秀な人材育成や安心して子どもを育てられる環境づくりに努める。

1 優れた教職員の確保と資質・能力の向上

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 59～61 頁

教育センターにおける教員研修等の充実

- 各キャリアステージにおける経年研修や職責に応じた職務研修、希望参加の専門研修・教職大学院連携研修において、喫緊の教育課題に対応した対話的な研修を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
27	授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合【再掲】	%	小学校 5 年生 73.1 中学校 2 年生 59.5	小学校 5 年生 66.9 中学校 2 年生 52.6	D	小学生 77 中学生 65

評価・課題

- 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に基づいて、体系的・効果的・効率的な研修を実施し、受講者へのアンケートでは4段階で3.8と高い評価が得られた。

今後の展開

- 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を見直すとともに、各キャリアステージにおける経年研修をはじめとする各種研修について、教員の資質・能力の向上に向けて、研修内容の精選と充実を図る。

2 学校における働き方改革の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 62～65 頁

教職員の働き方改革の推進

- 「県立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定した。
- フレックスタイム制を導入し、勤務時間を午前7時から午後7時15分までの範囲で、割り振ることができるようにした。

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
28	県立学校教職員の年次休暇の年間 取得日	日	9.1	12.1	B	15 以上

評価・課題

- 特別支援学校の教諭等において、時間外在校等時間が45時間以下の割合は、ほぼ全国平均並みである一方、高校の教諭等においては、時間外在校等時間が45時間以下の割合は少しずつ改善しているものの、全国で比較すると下回っている状況である。

今後の展開

- 希望する学校全てに部活動指導員を配置できるよう、一層の増員を行っていく。(令和8年度は最大14名)
- ストレスチェック制度について十分に周知を行い実施を徹底するとともに、高ストレス者の医師との面談を行うよう勧奨する。さらに、集団分析結果を所属長に情報提供し、職場環境の改善につながるよう啓発していく。

1 地域と協働する学校づくりの推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 66～67 頁

連携・協働の推進

- ・ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の充実や地域学校協働活動推進員等の活用により、学校と地域住民や保護者等がビジョンや目標を共有して学校運営に参画する仕組みづくりを推進

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
29	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	%	小学校 78.6 中学校 63.2 (R元年度)	小学校 82.4 中学校 69.0	A	小学校 83 中学校 68

評価・課題

- コミュニティ・スクールについては、県教育委員会主催による理解促進のための研修会等の取組みを進めており、本県における公立小・中学校におけるコミュニティ・スクールの導入率は、95.4%であり、全国平均を 30pt 以上上回っている。

今後の展開

- 現在コミュニティ・スクールが導入されていない学校については、学校と地域との連携を通して培われた協働体制を生かしながら、円滑に導入が進められるよう支援していく。

2 学校の特色化・魅力化の推進

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 68～70 頁

魅力ある学校づくりの推進

- ・ 「魅力あふれる県立高校推進事業」における研究成果である「魅力あふれる香川型教育メソッド＜1＞」を用いて、「香川型探究学習」の考え方や実現のための方法論を研究指定校以外の県立高校に普及、推進

全国からの生徒募集（せとうち留学）

- ・ せとうち留学生等に適切な住環境を備えた物件を紹介するため、一定の要件を満たす住環境を提供できる民間企業等と業務提携を行い、県教育委員会ホームページで紹介

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
30	探究発表会（相当以上の発表会）に参加した県立高校数	校	14	18	B	21

評価・課題

- 多くの高校で、特色のある探究的な学びの実践とそれによる学校の魅力化・特色化の取組みが行われた。
- せとうち留学によるさらなる入学者の確保に向けた課題として、広報に関して、これまでの広報では県関係のネットワークが中心であること、また、広報媒体は紙媒体がメインであり中学生への訴求力が高い動画やSNSによる広報があまりできていないことがある。また、せとうち留学生にとっての安心・安全な生活環境の確保についても課題である。

今後の展開

- 香川型探究学習推進事業や郷土に誇りを持つ教育の推進事業を通して、すべての県立高校における魅力化・特色化及び魅力の発信を推進する。
- 全国からの生徒募集(せとうち留学)については、令和6年度に配置した2名のコーディネーターと連携しながら、地域の関係機関との連携、せとうち留学生の受入体制や生活環境等の整備に取り組む。

重点項目6 家庭や地域での学びの環境づくり

基本的方向① 家庭・地域の教育力の向上

1 家庭の教育力の向上

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 71～72 頁

親育ちのための学習機会の充実

- ・ 保護者がインターネット利用について考える学習会へ、さぬきっ子安全安心ネット指導員の派遣（59 回、参加者約 7,300 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
31	保護者学習会への「さぬきっ子安全安心ネット指導員」の派遣数(年度)	回	25	59	B	75

評価・課題

- 学校やPTAと連携を深め、保護者が集まる機会での講座、ワークショップや保護者同士が学び合う機会の提供に努めているが、保護者が集まる機会が減少し、学び合う場が少なくなっている。
- 保護者が地域の人との関わりの中で安心して家庭教育ができる環境づくりが求められている。

今後の展開

- 保護者が集まる場を家庭教育の学習機会として活用するよう働きかけ、子どもの成長を実感したり、子どもの成長を促したりする関わり方等を学ぶ機会を提供する。
- 地域の多様な人材を活用したきめ細かな家庭教育支援を積極的に進めていく。

2 地域の教育力の向上

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 73～74 頁

地域コーディネーター等の育成と関係団体の活性化

- ・ 各市町行政職員や地域コーディネーターを対象に「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に係る研修会」を開催（2回のべ211名参加）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
32	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合【再掲】	%	小学校 78.6 中学校 63.2 (R元年度)	小学校 82.4 中学校 69.0	A	小学校 83 中学校 68

評価・課題

- 地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの趣旨や仕組みの理解が少しずつ進んでおり、地域学校協働本部及び学校運営協議会の設置数も増加傾向にある。
- 地域コーディネーター等、地域学校協働活動の中心となる人材が不足している。

今後の展開

- 地域のさまざまな団体と連携を図り、子どもたちの多種多様な体験活動の促進・充実をより一層推進する。
- 研修会等の実施により、学校と家庭、地域住民や団体などをつなぐ地域コーディネーターなどの人材育成への取組みをさらに進める。

1 子どもが読書に親しめる環境づくり

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 75～76 頁

家庭における読書活動の推進

- ・ 保護者や教員等に対して、絵本の読み聞かせの重要性や効果、本の選び方などを助言できるアドバイザーの養成講座を実施（参加者数 26 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
33	親子読み聞かせ教室に参加した保護者の割合	%	61.2	69.5	B	76

評価・課題

- 幼稚園、保育所（園）、認定こども園の保護者を対象に、読み聞かせのコツや効用等について学ぶ教室を継続して開催しており、園によっては毎年恒例の行事として定着しているなど、多くの保護者に参加をいただいている。今後も継続して読み聞かせを実施する機会の確保に努めていく。

今後の展開

- 幼稚園、保育所（園）、認定こども園だけでなく、子育て支援センターにおいても「親子読み聞かせ教室」を実施し、より多くの保護者を対象に、家庭における読み聞かせの重要性を伝えていく。

2 生涯学べる環境づくり

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 77～78 頁

県立図書館の充実

- ・ 本県の中核図書館として、県民の生涯学習活動や課題解決支援に必要となる新鮮で魅力ある蔵書の整備・充実を図るとともに、市町立図書館等を支援

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
34	県立図書館の利用者数	人	463,054 人 (H29～R元年度の平均)	422,583 人	D	480,000 人

評価・課題

- 県立図書館の昨年度の利用者数は 422,583 人となり、令和6年度より 21,413 人（対前年比 5.3%）増加した。利用者数は、ここ数年増加傾向にあるものの、高齢化や人口減少に加え、ウェブ上で容易に情報が入手できることなど、利用者の減少につながる要因もあり、コロナ禍前の水準への回復には至っていない。

今後の展開

- 県立図書館においては、利用者数の着実な回復に向け、蔵書資料の充実など利用者ニーズに応じたサービスの提供に一層努めるとともに、子ども向けのおはなし会や各種企画展示、参加型イベントの開催など、来館することで得られる価値を高めた取組みを積極的に進める。

1 生涯にわたリスポーツに親しむことができる環境づくり

令和 7 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 79～80 頁

総合型地域スポーツクラブの育成支援

- ・ 地域のスポーツリーダーが、スポーツをめぐる地域の現状と課題を把握し、その課題解決に総合型地域スポーツクラブが果たす役割について認識を深めるため、四国ブロッククラブネットワークアクション 2025 を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
35	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	54.9 (R元年度)	53.5	D	70

評価・課題

- 総合型地域スポーツクラブは、令和 7 年度末時点で 28 のクラブが設立されているが、活動が滞っているクラブを整理し、クラブの数から活動の質の向上に注力していく必要がある。

今後の展開

- 総合型地域スポーツクラブは地域住民のスポーツ参画の基盤であり、その担い手も地域住民であるため、市町と連携し、既存クラブの活動の質の向上を支援する。
- 「みなスポ！かがわ 2026」スポレク広場を県立アリーナで開催し、幅広い世代がスポーツとレクリエーションに親しみ、体験できる機会を提供する。

1 トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 81～82 頁

ジュニア期からのタレント発掘、育成

- ・ 豊かなスポーツの素質を持つ小学校3～5年生を毎年発掘し、小学校卒業までの間、月2回程度、3～6年生4学年を対象に行うスーパー讃岐っ子育成プログラムを実施（計61回）
- ・ 中学校に部活動の少ない競技で、競技団体が運営するクラブの立ち上げを継続的に活動支援

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R7 年度実績	評価	R8 年度目標
36	オリンピック大会に出場した本県関係の選手数	人	2 (過去5大会の平均)	—	—	3 (R6年度)
37	国民体育大会男女総合成績 (国民スポーツ大会)	位	31 (H27～R元年度の平均)	29	A	20 台

評価・課題

- かがわジュニア育成プランから育った本県出身選手が全国大会で活躍するなど、成果が上がっている。
- 国民スポーツ大会(滋賀県)が開催され、29 位となり、目標である 20 位台を 2 年ぶりに達成できた。

今後の展開

- スーパー讃岐っ子の募集について、小学生 4、5 年生を対象にしていたものを 3 年生から実施し、より効果的に展開できるよう進めていく。
- 競技スポーツにおける育成・強化はもとより、国民スポーツ大会などの各種競技スポーツ大会で活躍している本県選手・団体の情報を積極的に発信することで、県民に理解され、応援してもらえるよう効果的に事業を展開する。

8 文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用

令和7年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 83～84 頁

文化財の指定等

- ・ 「男木島灯台」を国の重要有形文化財（建造物）に指定
- ・ 「金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群 27 面」、「渡舟 小林萬吾筆 1 面」を県指定有形文化財（絵画）、「堆黒松ヶ浦香合 玉椿象谷作 3 合」、「一角印籠 玉椿象谷作 1 具」を県指定有形文化財（工芸品）に指定
- ・ 「香川県立善通寺第一高等学校（旧私立善通寺高等女学校）旧正門」など 2 件を登録有形文化財（建造物）に登録

文化財の活用

- ・ 文化財保存活用地域計画の作成を支援（作成中 2 件：琴平町、まんのう町）
- ・ 文化財保存活用地域計画策定後の継続支援（1 件：小豆島町（小豆島町文化財保存活用地域計画推進協議会への参画））
- ・ 個別の文化財保存活用計画の作成を支援（作成中 4 件：史跡津田古墳群・富田茶臼山古墳、史跡讃岐遍路道志度寺境内、重要文化財旧恵利家住宅、重要文化財鍋島灯台）
- ・ 讃岐国府跡について地元イベントに合わせた現地説明会や、周辺の関連文化財を巡る「まちあるき」などの活用事業をボランティアの協力を得て実施するとともに、埋蔵文化財センターが所蔵する考古資料を活用したテーマ展を 4 回開催

「人生 100 年時代のフロンティア県・香川」実現計画に掲げている指標の現状と評価

指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R7 年度 実績	評価	R8 年度 目標
国県指定の文化財数[累計]	件	14 (H28～R2 年度)	13	B	16
文化財の保存活用計画と文化財保存活用地域計画の作成件数[累計]	件	1	12	A	14

評価・課題

- 新規の指定・登録件数は、国指定文化財 1 件、国登録文化財 2 件、県指定文化財 4 件を数え、中長期的な指定計画に基づく調査や、県文化財保護審議委員、所有者、市町等との調整等を着実に進めた結果、指定・登録件数が順調に増加している。
- 文化財は、定期的な修理によって保存継承を図る必要があるが、多額の経費が必要となる事業については、所有者の要望に対して十分に補助金が措置できていない。そのため、企業版ふるさと納税制度等を活用して文化財保存修理に寄附金を募る「かがわの文化財保全・活用応援プロジェクト」を所有者や市町と連携して推進し、所有者の経済的負担の軽減を図るなど、課題への対策を進めた。一方、台風等による破損や新指定文化財の修理等に対する財政支援は十分行えていない。

今後の展開

- 文化財の指定については、文化庁や県文化財保護審議委員、市町や所有者と連携し、中長期の指定計画に位置付けている個々の文化財の調査を着実に進めるとともに、調査や研究の進展により新たに価値付けされた文化財についても指定を推進していく。
- 文化財の保存修理や活用に係る事業が、各市町において計画的、効果的に行うことができるよう、法定計画である保存活用計画や保存活用地域計画の策定を各市町に促すとともに、同計画が地域づくりに貢献する取組みとして位置づけられるよう、市町内の関係部局との連携を促す。

Ⅳ 「香川県教育基本計画」及び『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げている数値目標に対する現状と評価

番号	項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績・評価		令和7年度 実績	評価 ※1	令和8年度の目標
① 学力の育成													
1	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 73.1% 中学校2年生 59.5%	70.9% 60.5%	C	69.7% 57.5%	D	68.5% 55.5%	D	67.5% 54.3%	D	66.9% 52.6%	D	小学校5年生 77% 中学校2年生 65%
2	全国学力・学習状況調査における正答率40%未満の児童生徒の割合の全国平均との差	小学校6年生 -1.8pt (R元年度) 中学校3年生 0.0pt (R元年度)	-0.4pt 1.7pt	D	-1.8pt 2.2pt	C	-1.1pt 0.5pt	C	-1.8pt 0.7pt	D	-0.7pt 0.9pt	D	小学校6年生 -2.4pt 中学校3年生 -0.6pt
3	「読書は好きですか」との質問に、「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 79.7% 中学校2年生 74.0%	77.6% 71.2%	D	75.6% 67.4%	D	74.9% 66.0%	D	73.1% 63.7%	D	70.4% 60.0%	D	小学校5年生 82% 中学校2年生 75%
4	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	小学校 68.8% 中学校 59.2% 高校 85.4% 特別支援学校 70.5% (R元年度)	67.2% 58.0% 82.4% 67.8% (R2年度)	D	71.8% 62.9% 80.7% 66.7% (R3年度)	D	74.4% 63.3% 84.2% 82.6% (R4年度)	C	76.5% 65.7% 85.4% 79.9% (R5年度)	D	80.8% 66.5% 82.9% 76.5% (R6年度)	D	小学校 100% 中学校 100% 高校 100% 特別支援学校 100%
5	「英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」との質問に「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	中学校 75.8% (R元年度)	80.8%	A	86.7%	A	84.0%	A	80.7%	A	79.6%	B	中学校 82%
6	幼小の円滑な接続に向け、接続期のカリキュラムを検討する研修会に参加した幼稚園の割合	20.5%	49.4%	A	57.1%	A	67.6%	A	78.8%	A	93.7%	A	80%
7	通常の学級に在籍する、障害のある児童生徒などのうち、特別な支援を必要とする児童生徒※の中で、「個別の指導計画」が作成されている割合※通級による指導対象者を除く	小学校 37.3% 中学校 11.0%	41.1% 18.2%	B	47.1% 9.5%	C	47.6% 15.3%	C	48.7% 13.3%	C	50.4% 16.5%	C	小学校 60% 中学校 50%
8	異校種の児童生徒を対象とした交流事業を行っている県立高校の割合	24.1%	24.1%	D	48.3%	A	55.2%	A	55.2%	A	58.6%	A	60%
② 心の育成													
9	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 77.2% 中学校2年生 76.1%	76.6% 75.3%	D	76.4% 75.5%	D	75.5% 74.9%	D	76.7% 75.5%	D	76.6% 75.3%	D	現状を上回る水準
10	「自分には、よいところがあると思いますか。」との質問に、「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 71.2% 中学校2年生 66.4%	66.4% 67.9%	C	68.7% 68.3%	C	69.6% 70.6%	C	70.8% 72.1%	C	72.7% 73.9%	A	小学校5年生 72% 中学校2年生 67%
11	「本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」との質問に、月に1～3回以上と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 71.9% 中学校2年生 33.1%	69.8% 34.5%	C	67.0% 31.8%	D	65.0% 31.1%	D	65.2% 29.8%	D	63.2% 27.6%	D	小学校5年生 76% 中学校2年生 38%
12	人権・同和教育教職員ハンドブックを活用して校内研修を行った学校の割合	50.8%	65.9%	A	61.2%	B	88.3%	A	94.5%	A	100.0%	A	100%
13	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 86.9% 中学校2年生 82.5%	84.9% 82.2%	D	81.7% 78.6%	D	81.0% 79.6%	D	81.0% 78.4%	D	81.7% 75.4%	D	現状を上回る水準
14	「学校に行くのは楽しいと思う。」に「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 80.3% 中学校2年生 76.5%	78.7% 75.7%	D	78.1% 75.2%	D	78.4% 77.4%	D	77.0% 77.0%	D	79.4% 78.6%	D	小学校5年生 83.0% 中学校2年生 82.3%
15	「携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか」との質問に、「守っている」または「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 72.5% 中学校2年生 60.6%	72.0% 61.8%	C	70.6% 62.3%	C	68.9% 61.8%	D	67.9% 60.9%	D	66.3% 59.8%	D	小学校5年生 75% 中学校2年生 66%
③ 体の育成													
16	全国体力・運動能力調査の体力合計得点の全国順位の平均	27 位 (R元年度)	26.5位	C	35位	D	26位	C	31位	D	34位	D	20位以内
17	肥満傾向児童生徒の出現率の平均(各校種の出現率5年間平均)	小学校 7.76% 中学校 9.27% 高校 10.11%	8.15% 9.41% 10.11%	D	8.63% 9.90% 10.34%	D	9.19% 10.36% 10.54%	D	9.54% 10.76% 10.53%	D	9.47% 10.95% 10.46%	D	現状からの減少
18	栄養教諭・学校栄養職員による教科等における食に関する指導を行っている割合	小学校 96.0% 中学校 79.1%	94.0% 92.3%	C	92.0% 89.1%	C	95.3% 90.5%	C	96.0% 85.5%	D	94.7% 87.3%	D	小学校 100% 中学校 100%
④ 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成													
19	「今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。」との質問に、「ある」または「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 66.4% 中学校2年生 44.3%	71.4% 46.6%	A	68.7% 44.2%	C	68.3% 42.2%	C	69.9% 43.6%	C	68.7% 42.2%	C	小学校5年生 68.7% 中学校2年生 53.2%
20	外部の関係機関から講師を招へいして主権者教育や消費者教育、金融教育等の取組みを行っている県立高校の割合	62.1%	41.4%	D	52.1%	D	72.4%	C	75.9%	C	79.3%	B	100%
21	「総合的な探究の時間」や「課題研究」の授業などで、地元の自治体や大学、企業等と連携した取組みを行っている県立高校の割合	79.3%	100%	A	83%	C	100%	A	100%	A	100%	A	100%
22	生徒が英語を用いた言語活動を、授業の半分以上において行っている公立高校の教員の割合	69.3% (R元年度)	53.8%	D	47.5%	D	59.5%	D	51.6%	D	—	— ※2	80%
23	課題解決型学習の推進に向けての校内研修を実施している県立高校の割合	34.5%	37.9%	C	44.8%	C	51.7%	C	51.7%	C	55.2%	C	100%

番号	項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績・評価		令和7年度 実績	評価 ※1	令和8年度の目標
⑤ 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり													
24	学校安全に関する外部の専門家や学校教育の専門家との連携を図るなど、学校安全計画や避難訓練等を外部有識者がチェック・助言する体制が整備されている学校の割合	41.6% (H30年度)	71.8%	A	73.1%	A	76.2%	A	76.6%	A	78.5%	A	78%
25	県立学校におけるトイレの洋式化の割合	県立中学・高校 60.6% 特別支援学校 81.4%	62.8% 83.8%	A	63.5% 85.1%	A	64.4% 85.9%	A	65.4% 87.0%	A	67.8% 87.2%	B	県立中学・高校 68% 特別支援学校 90%
26	経済的な理由で修学が困難な生徒等に対する奨学金の貸与	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	着実な実施
27	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合【再掲】	小学校5年生 73.1% 中学校2年生 59.5%	70.9% 60.5%	C	69.7% 57.5%	D	68.5% 55.5%	D	67.5% 54.3%	D	66.9% 52.6%	D	小学校5年生 77% 中学校2年生 65%
28	県立学校教職員の年次休暇の年間取得日数	9.1日	11.8	A	12.1日	A	14.1日	A	13.1日	B	12.1日	B	15日以上
29	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校 78.6% 中学校 63.2% (R元年度)	80.6% 59.1%	C	77.1% 58.2%	D	83.6% 71.9%	A	82.3% 65.7%	B	82.4% 69.0%	A	小学校 83% 中学校 68%
30	探究発表会（相当以上の発表会）に参加した県立高校数	14校	15校	A	19校	A	20校	A	20校	A	18校	B	21校
⑥ 家庭や地域での学びの環境づくり													
31	保護者学習会への「さめきっ子安全安心ネット指導員」の派遣数（年度）	25回	12回	D	23回	D	37回	C	53回	B	59回	B	75回
32	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合【再掲】	小学校 78.6% 中学校 63.2% (R元年度)	80.6% 59.1%	C	77.1% 58.2%	D	83.6% 71.9%	A	82.3% 65.7%	B	82.4% 69.0%	A	小学校 83% 中学校 68%
33	親子読み聞かせ教室に参加した保護者の割合	61.2%	65.9%	A	64.6%	B	58.3%	D	44.8%	D	69.5%	B	76%
34	県立図書館の利用者数	463,054人 (H29～R元年度の平均)	409,783人	D	396,949人	D	400,964人	D	401,170人	D	422,583人	D	480,000人
⑦ スポーツの振興													
35	成人の週1回以上のスポーツ実施率	54.9% (R元年度)	54.6%	D	52.5%	D	53.0%	D	58.2%	B	53.5%	D	70%
36	オリンピック大会に出場した本県関係の選手数	2人 (過去5大会の平均)	7人	—	—	—	—	—	3人	A	—	—	3人 (R6年度)
37	国民体育大会男女総合成績 (国民スポーツ大会)	31位 (H27～R元年度の平均)	中止	—	36位	D	29位	A	30位	B	29位	A	20位台

※1 【評価対象が複数ある場合の評価方法】指標の評価を、A: 4点、B: 3点、C: 2点、D: 1点と換算し、その合計を指標数で除して算出（小数点以下切り捨て）
※2 文部科学省が実施する「英語教育実施状況調査」において、令和7年度調査の質問項目が変更されたことに伴い、指標にある質問項目がなくなったため、評価できない。

『「人生100年時代のフロンティア県・香川」実現計画』に掲げている 数値目標に対する現状と評価

項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績・評価		令和7年度 実績	評価	令和8年度の目標
国県指定の文化財数〔累計〕	14件 (H28～R2年度)	1件	C	2件	C	4件	C	8件	B	13件	B	16件
文化財の保存活用計画と文化財保存活用地域計画の作成件数〔累計〕	1件	4件	A	7件	A	10件	A	12件	A	12件	A	14件

V 報告書の公表

報告書は、教育委員会事務局総務課、各教育事務所、県民室、各県民センターに備え付けるほか、県教育委員会Webサイトにおいて公表する。

（参考） 令和7年度に策定した計画（プラン）

計画(プラン)の名称	URL
県立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画	https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15171/0803_keikaku.pdf

令和 8 年度

教育委員会の事務の管理及び執行の

状況の点検及び評価に関する報告書【概要版】（令和 7 年度対象）

郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり

～自立・協働・創造を支える香川の教育～

香川県教育委員会